

# B&G 防災教室

## 実施マニュアルBOOK



自然の恵みと災いを学ぼう！

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーランド財団  
事業部 海洋センター・クラブ課

2020年3月

## ご あ い さ つ

B & G財団では、頻発する近年の自然災害に備え、2015年度より地域住民の防災意識の向上と海洋センターの避難所としての機能を高めていただくことを目的に、「B & G避難所開設訓練」を展開してきました。

また、2018年度は、子供達を主な対象とした「命を守る B & G防災教室」の開催も合わせて推進し、東京大学大学院 総合防災情報研究センター 特任教授 片田敏孝先生監修のもと「防災紙芝居」を作成し、全海洋センター・海洋クラブへ配布させていただきました。

2019年度につきましても、楽しく遊びながら進めていくカードゲーム形式の新たな防災教材や災害時に活用できるバンダナを作成し、希望する海洋センター・海洋クラブへ配布させていただきました。

本マニュアルブックは、これまでの配布教材の使い方や防災教室で活用できるプログラムをとりまとめたもので、それぞれの海洋センター・海洋クラブで、プログラムを組み合わせ、独自の内容で実施できる手助けとなるよう作成しました。

海洋センター・海洋クラブでの防災教室にご活用いただければ幸いです。

## 目 次

1. はじめに
2. 実施の流れ
3. 配布教材について
  - ①防災カードゲーム「なまずの学校」
  - ②B & G防災紙芝居
    - ・紙芝居（裏・表）
    - ・指導者用解説
    - ・B & G防災レンジャー（参加認定証）
- ※B Gコンパス申請様式一覧からダウンロードしてお使いください。
4. 避難所開設訓練プログラム編 楽しく防災を学ぼう
5. 避難所開設マニュアル

# 1. はじめに

防災教室を開催する前に、本マニュアルを活用し、配布教材の内容をぜひご確認ください。

## (1) 確認の手順

### ①指導者用映像の鑑賞（15分）

- ・釜石の奇跡で知られる片田先生が防災教育の必要性について話している指導者用映像です。映像要約及び映像のURLが本マニュアル資料に入っています。ぜひ、はじめにご覧ください。



### ②B & G防災紙芝居の実演（10分）

- ・片田先生が監修した自然の恵みと恐れを学ぶ紙芝居となっています。事前に指導ポイントを確認してください。



### ③防災カードゲーム「なまずの学校」のルール等の確認（10分）

- ・子供たちに大変人気の高い楽しみながら防災の知識を身に着けることができるカードゲームで、お題は8題あります。  
災害時の対応は正解がありませんので、災害時には身近なものを工夫して使うことが大切だということを伝えてください。



### ④ふりかえり（5分）

ゲームの実施方法などご不明な点は、海洋センタークラブ課までお問い合わせください。  
電話 03-6402-5314 メール center@bgf.or.jp

## 2. 実施の流れ（活用例）

### ①海洋センターでの実施例

#### 「B & G 防災教室」実施要項

##### 1. 目的

子供達を中心とした地域住民の防災意識の向上を図るとともに、地域コミュニティの拠点である海洋センターの防災拠点としての機能も高めること。

2. 主催 ○○海洋センター・クラブ または ○○町教育委員会等

3. 協力 公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

4. 実施日 ○○○○年○○月○○日

5. 会場 ○○海洋センター または ○○公民館等

6. 主な対象者 小学生をはじめとする地域住民

##### 7. 内容

自然の畏怖と恵みの視点から自然災害や防災の基礎を学ぶ「B & G 防災紙芝居」や緊急時の対応を学ぶ救急法、その他各地域の特性にあったプログラムと組み合わせて実施する。

なお、プログラムを終了した参加者には、「B & G 防災レンジャー」認定証を授与する。

##### 【プログラム例】

時間	内容
5分	導入、防災クイズ
5分	地域の自然災害と危険個所、避難経路について
10分	なまずの学校
10分	災害時に役立つバンダナ活用法
5分	振り返り
5分	B&G 防災レンジャー認定証授与式

地域にあった内容  
でプログラムを組  
み立ててください。

1. 目的

子どもたちの防災意識の向上を図るため、地域の醸成を図る拠点である海洋センターのプログラムを活用した、防災教室を実施する。

2. 実施日 ○○○○年○月○日（金）○限

3. 実施会場 ○○小学校

4. 対象 第○学年 ○○人

5. 内容

- (1) B&G 防災紙芝居
- (2) なまずの学校（カードゲーム）
- (3) 新聞紙スリッパづくり

◆タイムテーブル

時間	分数	内容	備考
0 : 00～03 : 00	3分	■導入 ・スタッフ紹介、全体の流れ説明 ・注意事項 説明	
03 : 00～00 : 10	7分	■防災紙芝居 ・講師から全子供たちへ朗読	・全員が紙芝居をみえるような形で机を配置する ・児童は全員着座の状態紙芝居は朗読する
00 : 10～00 : 15	5分	■なまずの学校（説明） ・カードゲームとルールの説明	・1グループに1名のスタッフがつく
00 : 15～00 : 35	20分	■なまずの学校 ・約4～6問程度を出題	・随時スタッフが記録を取る（記録用紙を準備）
00 : 35～00 : 40	5分	■新聞紙スリッパづくり	・場所を移動する
00 : 40～00 : 45	5分	■結果発表・片付け・まとめ	

◆グループ分け

- 2名1組を1ペアとして、6ペア1グループで、4グループを作る
- ※1ブロックごとに机をつけて座るようにレイアウトする。
  - ※1組のみ、3名で対応する。

なまずの学校を行う場合は、参加人数によってグループ分けが必要となります。

### ③県連絡協議会での実施例

#### 〇〇県連絡協議会「B & G防災教室」研修会 実施要項

##### 1. 目的

「B & G防災教室」は、子供達を中心とした地域住民の防災意識の向上を図るとともに、地域コミュニティの拠点である海洋センターの防災拠点としての機能を高めることを目的に実施している。

今回の講習会は、指導者に防災教室の指導方法を伝えることで、各海洋センターで防災教室を実施することを目的とする。

2. 主催 〇〇県連絡協議会

3. 協力 公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

4. 実施日 〇〇〇〇年〇月〇日

6. 会場 〇〇B & G海洋センター

7. 主な対象者 小学生をはじめとする地域住民、〇〇県連絡協議会指導者

##### 8. 研修内容

###### ①指導者のみの場合

時間	内容
10分	導入 災害・避難所基礎知識
40分	プログラム体験 防災体操／防災紙芝居／防災カードゲーム 段ボールを使った避難所グッズ／バンダナ活用方法
5分	各地域での事例紹介
5分	振り返り

###### ②地域住民の皆さんが参加する場合

時間	内容
5分	導入、防災クイズ
5分	B & G防災紙芝居
10分	B & G防災カードゲーム、地域の自然災害と危険箇所、避難経路について
10分	災害時に役立つバンダナ活用法
5分	振り返り
5分	B&G 防災レンジャー認定証授与式

### 3. 配布教材について

#### ①防災カードゲーム「なまずの学校」

##### テーマ

「防災の知恵と工夫を学ぼう！」

担架がない時にも毛布を使って担架をつくれたり、水を入れるポリタンクがなくても、ポリ袋とリュックでたくさんの水を運んだりすることができます。ちょっとした知恵と工夫でたくさんの人を救え、より快適に災害時の生活を送ることができる方法についてゲームを通して学びます。



##### 問題

「なまずの学校」には、以下8つの問題が入っています。地震や津波が発生した際の困った状況を想定し、困った状況を解決できるアイテムを選んでいきます。正解は、一つではありませんので、解説文を丁寧に説明してください。なお、詳細は、「なまずの学校」ルールシートを参考にしてください。

##### 通常問題

- Q 1 (6枚)：止血応急手当（レジ袋や大判ハンカチの活用）
- Q 2 (4枚)：運搬方法（毛布や畳の活用）
- Q 3 (5枚)：のどや目を守る方法（軍手や大判ハンカチの活用）
- Q 4 (5枚)：非常食
- Q 5 (5枚)：伝言方法（ガムテープや木片の活用）

##### 協力問題

- Q 6 (2枚)：水にぬれた体の保温（カーテンや新聞紙の活用）
- Q 7 (2枚)：水の運搬方法（ポリ袋やリュックの活用）
- Q 8 (2枚)：食器の代用法（新聞紙やラップの活用）

##### 人数

ルールシートに推奨人数は3人～6人とありますが、3人組のチームで実施すれば18人程度で実施が可能です。

※なまずの学校は、遊びの延長で楽しめる防災教材を活用した防災イベントを全国各地で実施しているNPO法人プラスアーツと共同で制作したものです。